

年 月 日

6 次産業化ネットワーク活動交付金（支援体制整備事業）実施計画書

都道府県知事 殿

事業実施主体名
代表者名
印

6 次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱（平成 25 年 5 月 16 日付け 25 食産第 599 号農林水産事務次官依命通知）第 5 の 1 に基づき、事業実施計画を提出します。

本事業実施に関する情報の取扱いについての同意の確認

以下について、「同意します」又は「同意しません」のいずれかに○をつけてください。

市区町村の長に提出した事業実施計画、事業実施状況の報告書及び成果目標の達成状況の評価の報告書に記載した情報について、地方農政局長等が、都道府県知事と共有することに、
同意します。
同意しません。

※個人情報の取扱い
地方農政局長等は、6 次産業化ネットワーク活動交付金の実施に関して得た個人情報について、「個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）」及び関係法令に基づき、適正に管理します。

(1) 事業の目的及び効果

① 事業の目的

② 対象都道府県名

③ 事業の効果

(2) 行政施策等との関連性

過去の類似施策の実施の有無

(3) 事業実施主体の概要及び添付資料

① 事業実施主体の概要

ア 名 称

イ 事務所の所在地及び連絡先

	所在地	連絡先（電話番号）
主たる事務所		
支援対象地域の常設拠点		

ウ 代表者名

エ 構成員数

オ 従業員数

カ 設立年月日

キ 所有施設の概要

② 添付書類

ア 事業実施主体の概況

（ア）定款又はこれに準ずる規約

（イ）役員等名簿

（ウ）事業計画、収支予算書及び収支決算書等

イ その他事業承認者が特に必要と認める書類

注：申請に際し必要な書類を添付します。

(4) 事業実施主体の組織体系図

統括企画推進員、企画推進員及び経理責任者の配置（兼務を含む。）及びその他補助者の雇用を含めた組織体制を記載します。

また、経理部門においては、複数の者によるチェック体制について記載します。

(5) 統括企画推進員及び企画推進員の関連業務の知見や経験等の有無

(6) 事業実施主体の支援実績

（事業実施主体が行ってきた類似の支援事業がある場合は記載します。）

(7) 6次産業化プランナー選定委員会及び活動評価会委員会等の開催

名 称	開催時期	開催場所	参加人数	開 催 内 容	備考

(8) 6次産業化プランナーの選定基準の内容

--

(9) 6次産業化プランナーの登録手続

① 公募

時 期	公募の方法	備考

注：印刷物により公募を行う場合には、備考欄に印刷部数を記入します。

② 書類審査

時 期	書類審査の方法	備考

注：応募する者に提出させる履歴書その他の書類の様式を添付します。

③ 面接

時 期	面接の方法	備考

(10) 6次産業化プランナーの専門分野別登録予定人数

専門分野	登録予定人数	備考

(11) 個人情報の適正な取扱いを確保するための措置

項目	内容	備考
利用目的の特定		
利用目的による制限		
書面等による直接取得時の利用目的の明示		
情報内容の正確性の確保		
保存期間		
情報の安全管理措置		
6次産業化プランナー及び事務局職員の監督		
委託先の監督		
第三者提供の制限		
保有情報の開示、訂正、利用停止		
苦情処理		

注：「内容」の欄を記入するに当たっては、「農林水産分野における個人情報保護に関するガイドライン」（平成27年7月1日農林水産省告示第1675号）を参照し、具体的に記述します。

(12) 6次産業化プランナーの秘密保持

注：6次産業化プランナーとして登録する者に対して提出を求める秘密保持に関する誓約書の様式を添付します。

(13) 事業実施内容及び実施時期

	第1四半期 (4～6月)		第2四半期 (7～9月)		第3四半期 (10～12月)		第4四半期 (1～3月)		合 計	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
・6次産業化・地産地消推進協議会の開催回数 (回)										
戦略に関する交流会の開催回数 (回、人)										
・人材育成研修会等の開催										
①人材育成研修会の開催回数及び参加人数 (回、人)										
②インターンシップ研修の開催場所、参加人数 (箇所、人)										
・農林漁業者へのサポート活動										
①6次産業化プランナーの派遣を通じた個別相談 件数 (件)										
②相談を通じた簡易な助言等 (件)										
③総合化事業計画認定者に対する派遣を通じた個 別相談件数 (件)										

(14) 6次産業化プランナーの評価

時 期	評 価 の 方 法	備 考

(15) 事業の実施方針

(都道府県及び市町村の6次産業化を推進するための戦略の方向性及び策定スケジュール、当該戦略を踏まえて行おうとする人材育成研修会及びインターンシップ研修の内容、6次産業化プランナーの活用方法、事業の推進方法や連携可能な人物及び機関も含めた事業の全体像を記載します。)

--

(16) 事業の実施方法

6次産業化等に関する戦略 の策定事業		・事業実施のポイント
		・戦略策定に向けた具体的な実施内容・方法、参集メンバー
		・戦略に関する交流会の具体的な実施内容・方法
人材育成研修会開催事業		・事業実施のポイント
		・具体的な実施内容・方法
	インターンシ ップ研修開催	・事業実施のポイント
		・具体的な実施内容・方法（受け入れ先の選定基準、研修の受け入れ先及び研修生の募集方法）
農林漁業者等へのサポート 活動事業		・事業実施のポイント
		・具体的な実施内容・方法、関係機関との連携

(17) 平成〇〇年度6次産業化ネットワーク活動交付金事業費積算書（支援体制整備事業）

団体名：

区分	平成〇〇年度事業費			備考（員数等の根拠等）
	員数	単価	金額	
		円	円	
合計				
交付金額				

注：交付金額の備考欄には、仕入れに係る消費税相当額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」と記入して下さい。

年 月 日

6次産業化ネットワーク活動交付金（推進事業のうち事業者タイプ）実施計画書

都道府県知事又は
市区町村長 殿

事業実施主体名
代表者名 印

6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱（平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知）第5の1に基づき、事業実施計画を提出します。

本事業実施に関する情報の取扱いについての同意の確認

以下について、「同意します」又は「同意しません」のいずれかに○をつけてください。

市区町村の長に提出した事業実施計画、事業実施状況の報告書及び成果目標の達成状況の評価の報告書に記載した情報について、地方農政局長等が、都道府県知事と共有することに、
同意します。
同意しません。

※個人情報の取扱い
地方農政局長等は、6次産業化ネットワーク活動交付金の実施に関して得た個人情報について、
「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」及び関係法令に基づき、適正に管理します。

(1) 事業の目的及び効果

① 事業の目的

② 事業の効果（価値連鎖・付加価値の拡大）

注：別添可

(2) 事業実施主体の概要及び添付資料

① 事業実施主体の概要

ア 名 称

イ 主たる事務所の所在地

ウ 代表者名

エ 構成員数

オ 従業員数

カ 設立年月日

キ 所有施設の概要

② 添付書類

ア 事業実施主体の概況

（ア）定款又はこれに準ずる規約

（イ）役員等名簿

（ウ）事業計画、収支予算書及び収支決算書等

イ 6次産業化を推進するための市区町村の戦略の内容を確認できる資料

ウ 認定総合化事業計画

エ 認定農商工等連携事業計画

オ 「地産地消促進計画」の内容を確認できる資料

カ 「人・農地プラン」の内容を確認できる資料

キ HACCP（高度化基盤整備を含む）の取組を確認できる資料

ク 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組であることを確認できる資料

ケ その他事業承認者が特に必要と認める書類

注1：申請に際し必要な書類を添付して下さい。

注2：別紙様式第2号の1の（1）から（5）、（7）及び（8）の項目は各メニュー共通とし、（6）の項目については、本要綱別記2－2の第1の取組に応じて、様式の必要箇所のみを提出します。

(3) 事業実施主体の組織体系図

(4) ネットワークに参画する農林漁業者・民間事業者、取組事業等の概要

構築するネットワークの名称（ ）

名称	所在地	代表者名	取組事業	概要

注：総合化事業計画の認定を受けた者又は受ける見込みの者、農商工等連携事業計画の認定を受けた者又は受ける見込みの者については、概要欄に記入するか、別紙を添付してもよいです。

(5) 構築しようとするネットワークの姿



注：別紙を添付してもよいです。

(6) 事業目標及び事業内容等

① 加工適性のある作物導入

ア 事業目標

目標（達成すべき成果）
成果（実績）

注１：目標（達成すべき成果）欄には、達成すべき定量的な目標について記入します。

注２：成果（実績）欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

イ 事業内容

（ア）講習会への参加

	講習会名	参加時期	参加場所	講習会の概要
計画				
実績				

(イ) 試験栽培の実施

品 目	栽培時期	栽培の概要	
		計画	実績

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(ウ) 栽培技術指導の開催

品 目	開催時期	栽培技術指導の概要	
		計画	実績

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

② 新商品開発・販路開拓支援事業

ア 事業目標

(計画名)

(本事業着手に至る経緯)

(事業目標)

注 1：複数年度にわたる事業計画については、新商品開発・商品化・販路開拓に取り組む計画とし、事業計画全体の事業目標を記入します。

注 2：事業目標には、開発する商品の具体的な特徴（開発する商品の新規性、活用する国産農林水産物等又は製造工程の先進性や独自性等）、販路開拓の戦略、本事業による取組内容等を記入の上、達成すべき成果（商品化による効果（売上高等））を明記します。

注 3：認定総合化事業計画及び認定農商工等連携事業計画に係る事業については、本項目を省略することができます。

イ 事業全体計画

事業計画期間（事業計画全体の期間を記入）		
開始年月：平成 年 月		
終了年月：平成 年 月		
事業概要		
	計 画	実 績
平成 年度		

注 1：年度別事業概要欄に、年度別（当年 4 月から翌年 3 月まで）の事業概要を記入します。また、事業実施後は、実施年度ごとに実績欄に取組実績を記入します。

注 2：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載願います。

【参考】事業計画全体における経費明細表（又は実績）

単位：千円

事業年度	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注１：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。

注２：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

ウ 平成 年度の事業計画（又は事業実績）

（ア）事業実施内容及び実施時期

実施時期	実施内容	
	計 画	実 績
第１四半期 (４～６月)		
第２四半期 (７～９月)		
第３四半期 (10～12月)		
第４四半期 (１～３月)		

注１：複数回実施する場合は、概要を記入します。

注２：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(イ) 主要原料の取引を行う農林漁業者等の概要

農林漁業者等	所 在 地	対象農林水産物	作付面積等	出 荷 量	販 売 額
			(ha)	(トン)	(百万円)

注：直近年度の作付面積等、出荷量、販売額等を記入します。

(ウ) 開発する商品（又は開発した商品）の状況

a 開発する新商品名（仮称を含む）及び概要

新商品名	概 要	計 画	実 績

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：試作品の改良や分析を複数回実施する場合は、計画欄（実施報告時は実績欄）にその旨を記載します。（３回まで）。

b 開発する新商品に関する検討状況

	検討状況	実 績
仕入れ先の確保の状況		
製造過程における技術的課題		
販売価格の設定及びその考え方		
事業の実施体制		
その他		

注１：検討状況欄には、計画策定時の検討状況を記入します。

注２：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(エ) 開発・製造・販路開拓等の実施に係る連携体制

概略図（産地、農林漁業者、開発・製造企業、研究機関、販路開拓する者等の連携参加者の構成及び役割）

注：連携に参画する農林漁業者・民間事業者等の名称及び役割を明記します。

開発、市場評価、販路開拓等に参画するスタッフの所属・役職名

(オ) 新商品開発の実施

a 試作品の製造に関する資材の購入の内訳

資材名	購入量	備考

b 成分分析の実施

実施時期	分析の種類・品目	実施場所	備 考

注：開発商品の衛生、安全性、成分等を検査するための分析について記入します。

(カ) 消費者評価会の実施

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	試供品の作成・提供数
計画					
実績					

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(キ) 販路開拓の実施

商談会等への出展

	開催時期	開催名称	開催内容	開催場所	来場対象者	試供品の 作成・提供数
計画						
実績						

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(ク) 主要原料取引計画及び売上計画

a 主要原料取引計画の概要

主要原材料名	(平成 年)		
	原料使用量 (トン)	うち契約取引数量 (トン)	相手先

注1：翌年度からの計画を、年度別（当年4月から翌年3月まで）に記入します。複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

注2：農林漁業者等が自ら商品開発に取り組む場合には、当該取組に使用される原料(自らの生産に係る国産農林水産物等) について記入します。

b 売上計画の概要

製品名	販売先	初年度 (平成 年)a	第2年度 (平成 年)	第3年度 (平成 年)b	b/a
		千円	千円	千円	%
計					

注：翌年度からの計画を、年度別（当年4月から翌年3月まで）に記入します。

(7) 成果目標

① バリューシステムに係る取組（実需者・消費者へ商品価値の提示を行う取組等）

注：別紙を添付してもよいです。

② イノベーションに係る取組（販路、価値、生産、原材料、組織の5つの分野で新結合を行う取組）

注：別紙を添付してもよいです。

③ 地域経済への波及効果を及ぼす取組（競合商品・競合先がなく、地域経済（雇用創出、農林水産業振興、関連産業振興）への波及効果を及ぼす取組）

注：別紙を添付してもよいです。

(8) 行政施策等との関連性等

該当する項目にチェックを入れて下さい。

① 市区町村戦略に基づいて行う取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

「市区町村戦略に基づいている」と該当すると市区町村が判断した理由

※本事業計画における取組について、当該市区町村戦略のどの部分に該当するかを具体的に記載。

注：確認を行った市区町村の担当者の氏名を記載します。

② 事業実施主体の所在する市区町村で、「地産地消促進計画」を策定していますか（新商品開発・販路開拓の実施の場合、事業実施主体の所在する市町村で策定した「地産地消促進計画」に則した取組ですか。）

☐ 該当します ☐ 該当しません

③ 事業実施主体の所在する場所が、「人・農地プラン」の策定されている地域ですか。（新商品開発・販路開拓の実施の場合、事業実施主体が「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられていますか。）

☐ 該当します ☐ 該当しません

④ 商品の製造工程においてH A C C P（高度化基盤整備を含む）を取り入れています（又は取り入れる見込です）か。

☐ 該当します ☐ 該当しません

⑤ 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

(9) 平成〇〇年度6次産業化ネットワーク活動交付金事業費積算書（推進事業）

団体名：

区分	平成〇〇年度事業費			備考（員数等の根拠等）
	員数	単価 円	金額 円	
合計				
交付金額				

注：交付金額の備考欄には、仕入れに係る消費税相当額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」と記入して下さい。

年 月 日

6 次産業化ネットワーク活動交付金（推進事業のうち地域タイプ） 実施計画書

都道府県知事又は
市区町村長 殿

事業実施主体名
代表者名 印

6 次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱（平成 25 年 5 月 16 日付け 25 食産第 599 号農林水産事務次官依命通知）第 5 の 1 に基づき、事業実施計画を提出します。

本事業実施に関する情報の取扱いについての同意の確認

以下について、「同意します」又は「同意しません」のいずれかに○をつけてください。

市区町村の長に提出した事業実施計画、事業実施状況の報告書及び成果目標の達成状況の評価の報告書に記載した情報について、地方農政局長等が、都道府県知事と共有することに、
同意します。
同意しません。

※個人情報の取扱い
地方農政局長等は、6 次産業化ネットワーク活動交付金の実施に関して得た個人情報について、
「個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）」及び関係法令に基づき、適正に管理します。

(1) 事業の目的及び効果

① 事業の目的

② 事業の効果（価値連鎖・付加価値の拡大）

注：別紙を添付してもよいです。

(2) 事業実施主体の組織体系図

(3) 事業実施主体の概要及び添付資料

① 事業実施主体の概要

ア 名称

イ 主たる事務所の所在地

ウ 代表者名

エ 構成員数

オ 従業員数

カ 設立年月日

キ 所有施設の概要

ク 構築するネットワークの名称

ケ 構築するネットワークの概要

② 添付書類

ア 事業実施主体の概況

(ア) 定款又はこれに準ずる規約

(イ) 役員等名簿

(ウ) 事業計画、収支予算書及び収支決算書等

イ 6次産業化を推進するための市区町村の戦略の内容を確認できる資料

ウ 認定総合化事業計画

エ 認定農商工等連携事業計画

オ 「地産地消促進計画」の内容を確認できる資料

カ 「人・農地プラン」の内容を確認できる資料

キ HACCP（高度化基盤整備を含む）の取組を確認できる資料

ク 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組であることを確認できる資料

ケ その他事業承認者が特に必要と認める書類

注１：申請に際し必要な書類を添付して下さい。

注２：別紙様式第２号の２の（１）から（３）、（５）の項目は各メニュー共通とし、（４）の項目については、本要綱別記２－２の第１の取組に応じて、様式の必要箇所のみを提出します。

(4) 事業目標及び事業内容等

① 加工適性のある作物導入

ア 事業目標

目標（達成すべき成果）
成果（実績）

注1：目標（達成すべき成果）欄には、達成すべき定量的な目標について記入します。

注2：成果（実績）欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

【参考】事業計画全体における経費明細表（又は実績） 単位：千円

事業年度	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注1：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあつては、適宜欄を追加して記載します。

注2：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。

イ 事業内容

(ア) 講習会への参加

	講習会名	参加時期	参加場所	講習会の概要
計画				
実績				

(イ) 試験栽培の実施

品 目	栽培時期	計画	実績

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(ウ) 栽培技術指導の開催

開催時期	計画	実績

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

② 新商品開発、消費者評価会の実施及び販路開拓の実施

ア 事業目標

(計画名)

(本事業着手に至る経緯)

(事業目標)

注 1：複数年度にわたる事業計画については、新商品開発・商品化・販路開拓に取り組む計画として、事業計画全体の事業目標を記入します。

注 2：事業目標には、開発する商品の具体的な特徴（開発する商品の新規性、活用する国産農林水産物又は製造工程の先進性や独自性等）、販路開拓の戦略、本事業による取組内容等を記入の上、達成すべき成果（商品化による効果（売上高等））を明記します。

イ 事業全体計画

事業計画期間（事業計画全体の期間を記入）

開始年月：平成 年 月

終了年月：平成 年 月

事業概要		
	計 画	実 績
平成 年度		

注 1：年度別事業概要欄に、年度別（当年 4 月から翌年 3 月まで）の事業概要を記入します。また、事業実施後は、実施年度ごとに実績欄に取組実績を記入します。

注 2：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

【参考】事業計画全体における経費明細表（又は実績） 単位：千円

事業年度	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注 1：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

注 2：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。

ウ 平成 年度の事業計画（又は事業実績）

（ア）事業実施内容及び実施時期

実施時期	実施内容	
	計 画	実 績
第 1 四半期 （ 4 ～ 6 月）		
第 2 四半期 （ 7 ～ 9 月）		
第 3 四半期 （10～12 月）		
第 4 四半期 （ 1 ～ 3 月）		

注 1：複数回実施する場合は、概要を記入します。

注 2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

（イ）主要原料の取引を行う農林漁業者等の概要

農林漁業者等	所 在 地	対象農林水産物	作付面積等	出 荷 量	販 売 額
			(ha)	(ト)	(百万円)

注：直近年度の作付面積等、出荷量、販売額等を記入します。

(ウ) 開発する商品（又は開発した商品）の状況

a 開発する新商品名（仮称を含む）及び概要

新商品名	概 要	計 画	実 績

注1：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注2：試作品の改良や分析を複数回実施する場合は、計画欄（実施報告時は実績欄）にその旨を記載します（3回まで）。

b 開発する新商品に関する検討状況

	検討状況	実 績
仕入れ先の確保の状況		
製造過程における技術的課題		
販売価格の設定及びその考え方		
事業の実施体制		
その他		

注1：検討状況欄には、計画策定時の検討状況を記入します。

注2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(エ) 開発・製造・販路開拓等の実施に係る連携体制

概略図（産地、農林漁業者、開発・製造企業、研究機関、販路開拓する者等の連携参加者の構成及び役割）

注：連携に参画する農林漁業者・民間事業者等の名称及び役割を明記します。

開発、市場評価、販路開拓等に参画するスタッフの所属・役職名

(オ) 新商品開発の実施

a 試作品の製造に関する資材の購入の内訳

資材名	購入量	備考

b 成分分析の実施

実施時期	分析の種類・品目	実施場所	備 考

注：開発商品の衛生、安全性、成分等を検査するための分析について記入します。

(カ) 消費者評価会の実施

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	試供品の作成・提供数
計画					
実績					

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(キ) 販路開拓の実施
商談会等への出展

	開催時期	開催名称	開催内容	開催場所	来場対象者	試供品の 作成・提供数
計画						
実績						

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(ク) 主要原料取引計画及び売上計画
a 主要原料取引計画の概要

主要原材料名	(平成 年)		
	原料使用量 (トン)	うち契約取引数量 (トン)	相手先

注1：翌年度からの計画を、年度別（当年4月から翌年3月まで）に記入します。

注2：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

b 売上計画の概要

製品名	販売先	初年度 (平成 年)a	第2年度 (平成 年)	第3年度 (平成 年)b	b/a
		千円	千円	千円	%
計					

注：翌年度からの計画を、年度別（当年4月から翌年3月まで）に記入します。

ア 事業目標

(本事業着手に至る経緯)

(事業目標)

注1：複数年度にわたる事業計画については、施設給食の新たなメニューや加工品の開発、調査・分析、研修会の開催、導入実証等に取り組む計画として、事業計画全体の事業目標を記入します。

注2：事業目標には、新たなメニューや加工品の具体的な特徴（開発する新たなメニューや加工品の新規性、活用する地場産農林水産物等）、地場産農林水産物等の利用の戦略、本事業による取組内容等を記入の上、達成すべき成果（取組による効果（地場産利用率等））を明記します。

イ 事業全体計画

事業計画期間（事業計画全体の期間を記入）		
開始年月：平成	年	月
終了年月：平成	年	月
事業概要		
	計 画	実 績
平成 年度		

注1：事業概要欄に、年度別（当年4月から翌年3月まで）の事業概要を記入します。また、複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

注2：事業実施後は、実施年度ごとに実績欄に取組実績を記入します。

【参考】事業計画全体における経費明細表（又は実績）

単位：千円

事業年度	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注１：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

注２：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。

ウ 平成 年度の事業計画（又は事業実績）

（ア）事業実施内容及び実施時期

実施時期	実施内容	
	計 画	実 績
第１四半期 (４～６月)		
第２四半期 (７～９月)		
第３四半期 (10～12月)		
第４四半期 (１～３月)		

注１：複数回実施する場合は、概要を記入します。

注２：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

（イ）主要原料の取引を行う農林漁業者等の概要

農林漁業者等	所 在 地	対象農林水産物	作付面積等	出 荷 量	販 売 額
			(ha)	(トン)	(百万円)

注：直近年度の作付面積等、出荷量、販売額等を記入します。

(ウ) 開発する新たなメニュー・加工品の状況

a 開発する新たなメニュー・加工品名（仮称を含む）及び概要

新たなメニュー・加工品名	概 要	計 画	実 績

注 1：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注 2：試作品の改良を複数回実施する場合は、計画欄（実施報告時は実績欄）にその旨を記載します（3 回まで）。

b 開発する新たなメニュー・加工品に関する検討状況

	検討状況	実 績
仕入れ先の確保の状況		
製造過程における技術的課題		
販売価格の設定及びその考え方		
事業の実施体制		
その他		

注 1：検討状況欄には、計画策定時の検討状況を記入します。

注 2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(エ) 新たなメニュー・加工品の開発に係る連携体制

概略図（産地、農林漁業者、開発・製造企業、研究機関等の連携参加者の構成及び役割）

注：連携に参画する農林漁業者・民間事業者等の名称及び役割を明記します。

新たなメニュー・加工品の開発等に係る参画するスタッフの所属・役職名

(オ) 新商品開発の実施

a 新たなメニュー・加工品の開発に関する資材の購入の内訳

資材名	購入量	備考

b 成分分析等の実施

実施時期	分析の種類・品目	実施場所	備考

注：開発商品の衛生、安全性、成分等を検査するための分析について記入します。

エ 調査・分析の実施

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

オ 関係者等の相互理解を図るための取組

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

カ 学校給食における地場産農林水産物等の導入実証

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者数
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

④ 直売所の売上げ向上に向けた多様な取組

ア 事業目標

(計画名)

(本事業着手に至る経緯)

(事業目標)

注 1：複数年度にわたる事業計画については、検討会・研修会、新商品開発、消費者評価会、ツアー等の企画、イベント開催に取り組む計画として、事業計画全体の事業目標を記入します。

注 2：事業目標には、開発する商品の具体的な特徴（開発する商品の新規性、活用する国産原材料又は製造工程の先進性や独自性）やツアーの企画等の特徴等、本事業による取組内容等を記入の上、達成すべき成果（開発した商品の効果（売上高等））を明記します。

イ 事業全体計画

事業計画期間（事業計画全体の期間を記入）

開始年月：平成 年 月

終了年月：平成 年 月

事業概要		
	計 画	実 績
平成 年度		

注 1：年度別事業概要欄に、年度別（当年 4 月から翌年 3 月まで）の事業概要を記入します。また、事業実施後は、実施年度ごとに実績欄に取組実績を記入します。

注 2：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

【参考】事業計画全体における経費明細表（又は実績）

単位：千円

	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。また、複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

ウ 平成 年度の事業計画（又は事業実績）
事業実施内容及び実施時期

実施時期	実施内容	
	計 画	実 績
第 1 四半期 （ 4 ～ 6 月）		
第 2 四半期 （ 7 ～ 9 月）		
第 3 四半期 （10～12 月）		
第 4 四半期 （ 1 ～ 3 月）		

注 1：複数回実施する場合は、概要を記入します。
注 2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

エ 直売所の販売力向上に向けた運営体制強化・経営改善を図るための検討会・研修会の開催

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

オ 新商品の開発

(ア) 開発する新商品名（仮称を含む）及び概要

新商品名	概 要	計 画	実 績

注 1：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注 2：試作品の改良や分析を複数回実施する場合は、計画欄（実施報告時は実績欄）にその旨を記載します（3回まで）。

(イ) 開発する新商品に関する検討状況

	検討状況	実 績
仕入れ先の確保の状況		
製造過程における技術的課題		
販売価格の設定及びその考え方		
事業の実施体制		
その他		

注 1：検討状況欄には、計画策定時の検討状況を記入します。

注 2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(ウ) 開発・製造・販売等の実施に係る連携体制

概略図（産地、農林漁業者、開発・製造企業、研究機関、消費者評価等の連携参加者の構成及び役割）

注：連携に参画する農林漁業者・民間事業者等の名称及び役割を明記します。

商品開発、製造、消費者評価等に参画するスタッフの所属・役職名

（エ）主要原料の取引を行う農林漁業者等の概要

農林漁業者等	所 在 地	対象農林水産物	作付面積等	出 荷 量	販 売 額
			(ha)	(トン)	(百万円)

注：直近年度の作付面積等、出荷量、販売額等を記入します。

（オ）成分分析等の実施

実施時期	分析の種類・品目	実施場所	備 考

注：開発商品の衛生、安全性、成分等を検査するための分析について記入します。

(カ) 消費者評価会の実施

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	試供品の作成・提供数
計画					
実績					

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

カ 観光事業者等と連携したツアー等の企画

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

キ イベント等の開催

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者数
計画				
実績				

注：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

⑤ 地場産農林水産物等を利用した介護食品の開発

ア 事業目標

(計画名)

(本事業着手に至る経緯)

(事業目標)

注 1：複数年度にわたる事業計画については、新商品開発・商品化・販路開拓に取り組む計画として、事業計画全体の事業目標を記入します。

注 2：事業目標には、開発する商品の具体的な特徴（開発する商品の新規性、活用する地場産農林水産物等又は製造工程の先進性や独自性等）、販路開拓の戦略、本事業による取組内容等を記入の上、達成すべき成果（商品化による効果（売上高等））を明記します。

イ 事業全体計画

事業計画期間（事業計画全体の期間を記入）

開始年月：平成 年 月

終了年月：平成 年 月

注 1：年度別事業概要欄に、年度別（当年 4 月から翌年 3 月まで）の事業概要を記入します。また、事業実施後は、実施年度ごとに実績欄に取組実績を記入します。

注 2：複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

【参考】事業計画における経費明細表（又は実績）

単位：千円

	事業に要する経費 (A) + (B)	交付金 (A)	自己負担金 (B)
平成 年度			

注：事業実施後は、実施年度ごとに実績額を記入します。また、複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

ウ 平成 年度の事業計画（又は事業実績）

（ア）事業実施内容及び実施時期

実施時期	実施内容	
	計 画	実 績
第 1 四半期 （ 4 ～ 6 月）		
第 2 四半期 （ 7 ～ 9 月）		
第 3 四半期 （10～12 月）		
第 4 四半期 （ 1 ～ 3 月）		

注 1：複数回実施する場合は、概要を記入します。
注 2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

（イ）主要原料の取引を行う農林漁業者等の概要

農林漁業者等	所 在 地	対象農林水産物	作付面積等	出 荷 量	販 売 額
			(ha)	(トン)	(百万円)

注：直近年度の作付面積等、出荷量、販売額等を記入します。

(ウ) 開発する商品（又は開発した商品）の状況

a 開発する新商品名（仮称を含む）及び概要

新商品名	概 要	計 画	実 績

注1：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注2：試作品の改良や分析を複数回実施する場合は、計画欄（実施報告時は実績欄）にその旨を記載します（3回まで）。

b 開発する新商品に関する検討状況

	検討状況	実 績
仕入れ先の確保の状況		
製造過程における技術的課題		
販売価格の設定及びその考え方		
事業の実施体制		
その他		

注1：検討状況欄には、計画策定時の検討状況を記入します。

注2：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

(エ) 開発・製造・販路開拓等の実施に係る連携体制

概略図（産地、農林漁業者、開発・製造企業、研究機関、販路開拓する者等の連携参加者の構成及び役割）

注：連携に参画する農林漁業者・民間事業者等の名称及び役割を明記します。

開発、市場評価、販路開拓等に参画するスタッフの所属・役職名					

(オ) 配食サービスの実証

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	提供数
計画					
実績					

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：対象者に対してアンケート調査を行います。

注３：実施しない場合には、本項目を省略することができます。

(カ) 体験企画

	開催時期	開催名称	開催内容	開催場所	対象者	備考
計画						
実績						

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：対象者に対してアンケート調査を行います。

注３：実施しない場合には、本項目を省略することができます。

(キ) 食と健康サロンの設置

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	備考
計画					
実績					

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：対象者に対してアンケート調査を行います。

注３：実施しない場合には、本項目を省略することができます。

(ク) 介護食品提供方法の実証

	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	提供数
計画					
実績					

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：対象者に対してアンケート調査を行います。

注３：実施しない場合には、本項目を省略することができます。

(ケ) セミナーの開催

	開催時期	開催名称	開催内容	開催場所	対象者	備考
計画						
実績						

注１：実績欄には、事業実施後に取組実績を記入します。

注２：対象者に対してアンケート調査を行います。

注３：実施しない場合には、本項目を省略することができます。

(コ) 主要原料取引計画及び売上計画

a 主要原料取引計画の概要

主要原材料名	(平成 年)		
	原料使用量 (トン)	うち契約取引数量 (トン)	相手先

注：翌年度からの計画を、年度別（当年４月から翌年３月まで）に記入して下さい。また、複数年度にわたる事業計画を立てる場合にあっては、適宜欄を追加して記載します。

b 売上計画の概要

製品名	販売先	初年度 (平成 年)a	第２年度 (平成 年)	第３年度 (平成 年)b	b/a
		千円	千円	千円	%
計					

注：翌年度からの計画を、年度別（当年４月から翌年３月まで）に記入します。

(サ) 報告書の作成・配布

作成部数	主な配布先	備考
部		

⑥ 新技術等の事業化実証

ア 事業の目的等

※ 本事業の実施により、どのような事業を展開し、農林水産業・農山漁村に関連する資源を活用した新産業の創出に関して、どのような成果を実現しようとする事業なのかを記載します。

イ 事業の背景となる市場ニーズ及びこれまでの取組

※ 取り組もうとする事業の背景となる市場ニーズと客観的データ等を踏まえて詳しく記載します。
※ これまでの事業化に向けた取組の状況（事業化可能性調査等）あるいは事業化の可能性について、提案者又は連絡先との間における、これまでの検討状況等を記載します。

ウ 新技術等の事業化実証の事業内容

エ 新技術等の事業化実証の実施方法

オ 新技術等の事業化実証の実施体制

実施体制図

- ※ 委託を行う団体がある場合は、団体の名称及び概要並びに委託業務の内容を具体的に記載します。
- ※ 農林漁業者や異業種・異業態の事業者間の連携の内容を図により具体的に記載します（事業者の名称、主な担当者氏名、役割分担を記載）。

カ 新技術等の事業化実証の実施スケジュール

キ 新技術等の事業化実証の事業成果・効果

ク 新技術等の事業化実証の事業成果・効果の検証方法

ケ 事業目標（及び事業目標に対する実績）

- ※ 次年度以降の年間事業計画を記載して下さい。
- ※ 上記年間事業計画に対して定量可能な事業目標を記載します。
- ※ 実績報告時には、事業目標に対する実績を併せて記載します。

コ 期待される市場規模

- ※ 本事業の実施により創出しようとする産業について、期待される市場規模等について記載します。

（５）成果目標

① バリューシステムに係る取組（実需者・消費者等へ商品価値の提示を行う取組等）

注：別紙を添付してもよいです。

② イノベーションに係る取組（販路、価値、生産、原材料、組織の５つの分野で新結合を行う取組）

注：別紙を添付してもよいです。

- ③ 地域経済への波及効果を及ぼす取組（競合商品・競合先がなく、地域経済（雇用創出、農林水産業振興、関連産業振興）への波及効果を及ぼす取組）

注：別紙を添付してもよいです。

（６）行政施策等との関連性等

該当する項目にチェックを入れて下さい。

- ① 市町村戦略に基づいて行う取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

- ② 事業実施主体の所在する市町村で、「地産地消促進計画」を策定していますか（新商品開発・販路開拓の実施の場合、事業実施主体の所在する市町村で策定した「地産地消促進計画」に則した取組ですか。）

☐ 該当します ☐ 該当しません

- ③ 事業実施主体の所在する場所が、「人・農地プラン」の策定されている地域ですか。（新商品開発・販路開拓の実施の場合、事業実施主体が「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられていますか。）

☐ 該当します ☐ 該当しません

- ④ 商品の製造工程においてH A C C P（高度化基盤整備を含む）を取り入れています（又は取り入れる見込があります）か。

☐ 該当します ☐ 該当しません

- ⑤ 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

- ⑥ 地域再生法に基づき、内閣総理大臣から認定された地域再生計画に位置づけられた取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

(7) 平成〇〇年度6次産業化ネットワーク活動交付金事業費積算書（推進事業）

団体名：

区分	平成〇〇年度事業費			備考（員数等の根拠等）
	員数	単価	金額	
		円	円	
合計				
交付金額				

注：交付金額の備考欄には、仕入れに係る消費税相当額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」と記入して下さい。

年 月 日

6次産業化ネットワーク活動交付金(整備事業のうち事業者タイプ)実施計画書

都道府県知事又は

市区町村長

殿

事業実施主体名

代表者氏名

印

6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱（平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知）第5の1に基づき、事業実施計画を提出します。

本事業実施に関する情報の取扱いについての同意の確認

以下について、「同意します」又は「同意しません」のいずれかに○を付けてください。

市区町村の長に提出した事業実施計画、事業実施状況の報告書及び成果目標の達成状況の評価の報告書に記載した情報について、地方農政局長等が、都道府県知事と共有することに、同意します。

同意しません。

※個人情報の取扱い

地方農政局長等は、6次産業化ネットワーク活動交付金の実施に関して得た個人情報について、「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」及び関係法令に基づき、適正に管理します。

1 事業実施主体等の概要及び添付書類

(1) 事業実施主体の概要

法律の事業計画認定状況										
法律名			事業計画名		認定状況		認定(申請)年月日			
地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律			総合化事業計画		認定済	申請中	年	月	日	
中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律			農商工等連携事業計画		認定済	申請中	年	月	日	
(ふりがな)	()						代 表 者	役職名		
事業実施主体の名称								氏名		
主たる事務所の所在地	(〒)							性別		
								電話番号	-	-
							FAX番号	-	-	
事業実施場所(住所)							E-mail			
							常時使用する従業員数			名
種類		設立年月日	平成	年	月	日	みなし大企業の確認		重複申請の有無	有 ・ 無
業種					みなし大企業 である ・ でない					
事業実施主体の概要										
事業実施主体の事業内容										
過去の類似関連事業の実績、実施内容等										
事業実施主体又は事業担当者の業績等										
事業担当者名										

構成員(出資者等)							
氏名	性別	住所・所在地 (都道府県市町村名)	業種	事業実施主体における役職名	出資金		備考
						出資等比率	
					千円	%	
					千円	%	
					千円	%	
					千円	%	
					千円	%	
					千円	%	
					千円	%	
雇用に関する目標 ※構成員に3戸以上の農林漁業者 を含まない団体のみ記載		申請時 (平成 年度)	1年度目 (平成 年度)	2年度目 (平成 年度)	3年度目 (平成 年度)	4年度目 (平成 年度)	5年度目 (平成 年度)
		人	人	人	人	人	人

- 注 1 「種類」の欄には、「農業協同組合」、「森林組合」、「漁業協同組合」、「株式会社」、「合名会社」等のほか、事業協同組合等にあつては根拠法に基づく正式名称を記入し、その他農林水産物の生産、加工等を営む任意団体及び農作業の共同化等を行う任意団体にあつては「任意団体」と記入することとします。
- 2 「業種」の欄には、日本標準産業分類における業種を記入することとします。(農業、林業、漁業、製造業等)
- 3 「事業内容」の欄には、定款又は規約等で定める事業内容の全てを記載することとします。
- 4 みなし大企業でない場合は「みなし大企業の確認」の欄で「でない」に○をし、みなし大企業の場合は「である」に○をすることとします。
- 5 本事業以外に国、その他公的支援が受けられる事業に応募の場合は「重複申請の有無」の欄で有を選択し申請中の事業名及び事業概要を記入することとします。
- 6 内は事業実施主体が農林漁業者団体である場合のみ記入することとします。
- 7 「事業実施主体における構成員(構成員等)」の欄には、その全てを記入します。ただし、構成員が法人の場合は、法人名及び代表者名を記入するとともに、該当する事項を記入することとします(事業実施主体が事業協同組合等の場合の組合員を含みます。)。また、「株式会社」等にあつては、「出資者」等を記入することとします。
- 8 「事業実施主体における役職名」の欄には、農事組合法人は「理事」、株式会社は「取締役」、合名会社、合資会社等は「代表」等と記入することとします。
- 9 「備考」の欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入してください。この場合常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入することとします。
- 10 「雇用に関する目標」の欄の目標年度においては3人以上とすることとします。
- 11 今年度既に採択が決定及び実施している事業があれば枠を追加し事業名及び事業概要を記入することとします。

(添付書類)

(1)応募団体が農林漁業者団体の場合

① 農業経営を行う法人の場合

ア 定款

イ 登記事項証明書

ウ 直近3カ年分の決算報告書(貸借対照表、損益計算書等)

② 新たに農業経営を行う法人を設立する場合

ア 法人設立が確実であることの分かる書類

イ 親会社が存在する場合には、親会社の直近3カ年分の決算報告書

個人経営から新たに設立する場合には、直近3カ年分の構成員(代表者等)の所得税の確定申告書等

③ ①、②以外の農林業業者が組織する団体の場合

ア 組織の代表者、出資金及び規約等の分かる書類

イ 経理の一元化を行っていることの分かる書類

ウ 構成員に課税されている場合には、直近3カ年分の構成員(代表者等)の所得税の確定申告書等団体に課税されている場合には、直近3カ年分の決算報告書

④ 共通

ア 見積書

イ 機械・施設等の位置図

ウ 機械・施設等の配置図及び平面図

エ 機械・施設整備の工程(工事日程)等

オ 商品の製造工程(フローチャート)

カ 六次産業化・地産地消法第5条又は第6条の規定に基づく総合化事業計画又は変更した総合化事業計画の写し、又は農商工等連携促進法第4条又は第5条の規定に基づく農商工等連携事業計画又は変更した農商工等連携事業計画の写し

キ 貸付機関からの資金の貸付けに係る計画について当該資金を貸し付ける機関と事前相談等を行ったことが分かる書類(貸付機関名(支店名)、担当者名、連絡先、相談月日等を明記したもの)

ク 施設用地について農地法または農業振興地域の整備に関する法律に係る手続を行う必要がある場合は、その手続等の資料

ケ 土地や施設等を他者から貸借して事業を実施する場合は、事業の実施期間中、確実に事業実施できることを証する賃貸借契約書や誓約書等の資料

コ 本事業において連携する者との連携状況や役割分担等が分かる資料

サ 新商品の販路、加工・製造方法、原料農林水産物の確保等について専門家と相談した上で検討するなど、成果目標を達成するために行った事業実施前の取組の内容が分かる資料

シ 費用対効果分析における投資効率の算定の根拠を明らかにするため、6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱(平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知)の別記3-4様式に所要の事項を記載した書面及び当該書面のデータの根拠の欄に記載された内容を確認するために必要な書面

(2)応募団体が中小企業である場合

- ① 定款
- ② 登記事項証明書
- ③ 直近3カ年分の決算報告書(貸借対照表、損益計算書等)
- ④ 組織の代表者、規約等のわかる書類
- ⑤ 見積書
- ⑥ 機械・施設等の位置図
- ⑦ 機械・施設等の配置図及び平面図
- ⑧ 機械・施設整備の工程(工事日程)表
- ⑨ 商品の製造工程(フローチャート)
- ⑩ 農商工等連携促進法第4条又は第5条の規定に基づく農商工等連携事業計画又は変更した農商工等連携事業計画の写し
- ⑪ 貸付機関からの資金の貸付けに係る計画について当該資金を貸し付ける機関と事前相談等を行ったことが分かる書類(貸付機関名(支店名)、担当者名、連絡先、相談月日等を明記したもの)
- ⑫ 施設用地について農地法又は農業振興地域の整備に関する法律に係る手続きを行う必要がある場合は、その手続等の資料
- ⑬ 土地や施設等を他者から貸借して補助事業を実施する場合は、補助事業の実施期間中、確実に事業実施できることを証する賃貸借契約書や誓約書等の資料
- ⑭ 本事業において連携する者との連携状況や役割分担等がわかる資料(農商工等連携事業計画での連携以外にも、多様な事業者と連携する取組の場合のみ添付。)
- ⑮ 新商品の販路、加工・製造方法、原料農林水産物の確保等について専門家と相談した上で検討するなど、成果目標を達成するために行った事業実施前の取組の内容が分かる資料
- ⑯ 費用対効果分析における投資効率の算定の根拠を明らかにするため、6次産業化ネットワーク活動交付金実施要領(平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知)の別記3－4様式に所要の事項を記載した書面及び当該書面のデータの根拠の欄に記載された内容を確認するために必要な書面

(2) 連携する事業者の概要 … 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の②

連携事業者		活動拠点:住所・所在地 (都道府県市町村名)	業種	代表者名 (役職)	連携の内容・役割
①					
②					
③					
④					
⑤					
⑥					

注1 「業種」の欄には、日本標準産業分類における業種(大分類)を記載することとします。(農業、林業、漁業、製造業等)
2 申請者が農林漁業者の場合、販路等で連携する事業者を記載することとします。
3 申請者が中小企業者の場合、農商工等連携事業計画で連携する農林漁業者及び販路等で連携する事業者を記載することとします。
4 連携する者について全て記載し、欄が足りない場合には欄を追加して記載することとします。

2 事業の概要

事業の内容 及び実施方法	
事業の効果 (自らの経営改善 の他、地域農業、 地域経済への効 果等を記入)	
事業の スケジュール	

注 実施要領別記3-1の第2の2を選択している場合は、「事業の内容及び方法」に「新商品」の ①名称 ・ ②概要 ・ ③セールスポイント を必ず盛り込みます。

3 機械・施設の設置計画 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の③及び④

	No.	機械名	用途	処理能力	規格・形式	設置 台数	総事業費 (円)	負担区分(円)					貸付けの詳細			竣工予定 年月日	
								自己資金		地方公共団体等による助成金			交付金	貸付機関名	貸付 時期		償還 年数
								うち貸付金	都道府県	市町村	その他						
機 械																	
	合計						0	0	0	0	0	0					
施 設	No.	施設名	種類名	構造・規格	着工予定 年月日	総事業費 (円)	負担区分(円)					貸付けの詳細			竣工予定 年月日		
	自己資金		地方公共団体等による助成金			交付金	貸付機関名	貸付 時期	償還 年数								
	うち貸付金	都道府県	市町村	その他													
合計						0	0	0	0	0	0						
機械・施設の合計						0	0	0	0	0	0						

注1 「用途」の欄には、「〇〇のカット」、「〇〇の冷蔵」、「〇〇の梱包」等当該機械が備えている機能を記入することとします。

2 「施設名」には、「〇〇食品加工施設」、「〇〇育苗施設」等を、「種類名」の欄には、「建物」、「電気設備」、「空調設備」等を記入することとします。

3 「機械・施設の合計」には機械、施設の「総事業費」、「負担区分」の合計を記入することとします。

4 複数の機械・施設を導入する場合は、欄を追加し記入することとします。

4 機械・施設の規模決定根拠 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の④

①	機械・施設名		使用する農産物名			製品名		使用工程			
	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計			
	処理量[t]							0.0			
								0.0			
								0.0			
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	年間合計		
	処理量[t]							0.0	0.0		
								0.0	0.0		
								0.0	0.0		
	規模決定根拠										

②	機械・施設名		使用する農産物名			製品名		使用工程			
	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計			
	処理量[t]							0.0			
								0.0			
								0.0			
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	年間合計		
	処理量[t]							0.0	0.0		
								0.0	0.0		
								0.0	0.0		
	規模決定根拠										

注 この様式に準ずる既存書類(データ等)がある場合、その写しを添付してこれに代えることができます。

注 特に、建物等の規模決定根拠はそれぞれのスペース毎にその用途や必要性、規模決定根拠を記載するとともに、各スペースの面積がわかる平面図等を添付してください。

5 機械・施設の利用・計画 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1㉔

機械・施設名	対象農林水産物名 連携農林水産物名	利用期間	利用日数	月別利用計画													年間処理・生産 量	備考	
		目標	目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
																		t	
																		t	
																		t	
																		t	
																		t	
																		t	
																		t	
																		t	

注1 複数の機械・施設を導入する場合は、機械・施設ごとに、記入することとします。
2 複数の農林水産物について利用する場合は、農林水産物ごとに記入することとします。
3 「利用期間」については、「通年」、「〇月～〇月」等分かるように記入することとします。
4 「月別利用計画」については、原則として、事業対象の農林水産物処理量を記入することとします。

6 組織の収支計画 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の⑥

(1) 農林漁業者団体

経営全体の収支計画

		1年度目(年 月期)	2年度目(年 月期)	3年度目(年 月期)	4年度目(年 月期)	5年度目(年 月期)
①売上高		千円	千円	千円	千円	千円
品目	項目					
	経営規模	a	a	a	a	a
	生産量	t	t	t	t	t
	(うち〇〇〇原料)	t	t	t	t	t
	売上高	千円	千円	千円	千円	千円
	経営規模	a	a	a	a	a
	生産量	t	t	t	t	t
	売上高	千円	千円	千円	千円	千円
	経営規模	a	a	a	a	a
	生産量	t	t	t	t	t
	売上高	千円	千円	千円	千円	千円
	販売数量	本	本	本	本	本
	単価	円/本	円/本	円/本	円/本	円/本
	売上高	千円	千円	千円	千円	千円
売上高のうち総合化事業計画又は農商工等連携事業計画で用いる農林水産物等及び新商品の売上高		千円	千円	千円	千円	千円

②経営費	千円	千円	千円	千円	千円
原材料費	千円	千円	千円	千円	千円
施設・機械費	千円	千円	千円	千円	千円
うち減価償却費	千円	千円	千円	千円	千円
出荷販売経費	千円	千円	千円	千円	千円
雇用労賃	千円	千円	千円	千円	千円
支払利息	千円	千円	千円	千円	千円
支払地代・賃借料	千円	千円	千円	千円	千円
その他()	千円	千円	千円	千円	千円
所得(①－②)	千円	千円	千円	千円	千円

- 注1 様式については記載項目の追加等、適宜変更して記載してよいこととします。
- 2 この様式に準ずる既存の書類(データ等)がある場合、その写しを添付してこれに代えることができます。
- 3 総合化事業計画等との整合性をとることとします。

(2) 中小企業者

経営全体の収支計画

	1年度目(年 月期)	2年度目(年 月期)	3年度目(年 月期)	4年度目(年 月期)	5年度目(年 月期)
①売上高	千円	千円	千円	千円	千円
②売上原価	千円	千円	千円	千円	千円
③売上総利益(①－②)	千円	千円	千円	千円	千円
④販売費及び一般管理費	千円	千円	千円	千円	千円
⑤営業利益(③－④)	千円	千円	千円	千円	千円
⑥営業外収益	千円	千円	千円	千円	千円
⑦営業外費用	千円	千円	千円	千円	千円
⑧経常利益(⑤＋⑥－⑦)	千円	千円	千円	千円	千円
⑨人件費	千円	千円	千円	千円	千円
⑩減価償却費	千円	千円	千円	千円	千円
⑪付加価値額(⑤＋⑨＋⑩)	千円	千円	千円	千円	千円

注1 様式については記載項目の追加等、適宜変更して記載してよいこととします。

2 この様式に準ずる既存収支(データ等)がある場合、その写しを添付してこれに代えることができます。

7 商品等の販路や需要等の計画 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の⑦

(単位:t又は千円)

農林水産物等名 ・新商品名	販売先名	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目		販売単価	販売開始時期
		(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)	(年 月期)		

注 総合化事業計画等との整合性をとることとします。

8 直近3年の経営状況 . . . 実施要綱別記3-1 第5の1の(1)の⑩

項目	第 期		第 期		第 期		備考
	平成 年 月 日～	平成 年 月 日	平成 年 月 日～	平成 年 月 日	平成 年 月 日～	平成 年 月 日	
経常利益		千円		千円		千円	※損益計算書により確認 経常利益＝営業利益＋営業外収益－営業外費用 ※貸借対照表により確認
純資産額 (資産と負債の差額)		千円		千円		千円	

9 本事業で扱う農林水産物の生産割合 ・ ・ ・ 実施要綱別記3－1 第5の1の(2)

注 実施要綱別記3－1の第2の1 農林漁業者団体による6次産業化ネットワークの取組を選択した方のみ記載します。

総合化事業で用いる農林水産物		1年度目 (年 月期)	2年度目 (年 月期)	3年度目 (年 月期)	4年度目 (年 月期)	5年度目 (年 月期)
	全数量①	t	t	t	t	t
	自社生産量②	t	t	t	t	t
	事業参画者生産量③	t	t	t	t	t
	合計④(②+③)	t	t	t	t	t
	割合＝④÷①	%	%	%	%	%
	全数量①	t	t	t	t	t
	自社生産量②	t	t	t	t	t
	事業参画者生産量③	t	t	t	t	t
	合計④(②+③)	t	t	t	t	t
	割合＝④÷①	%	%	%	%	%
	全数量①	t	t	t	t	t
	自社生産量②	t	t	t	t	t
	事業参画者生産量③	t	t	t	t	t
	合計④(②+③)	t	t	t	t	t
	割合＝④÷①	%	%	%	%	%
	全数量①	t	t	t	t	t
	自社生産量②	t	t	t	t	t
	事業参画者生産量③	t	t	t	t	t
	合計④(②+③)	t	t	t	t	t
	割合＝④÷①	%	%	%	%	%

注 1 複数の新商品の場合には、農林水産物ごとに新たに欄を付け加えることとします。

2 複数の農林水産物の場合には、農林水産物ごとに新たに欄を付け加えることとします。

3 「割合」における目標年度の欄は50%以上であることが必要です。

4 数量(t)を用いて算出することとしますが、必要に応じて金額(千円)を用いて算出しても差し支えありません。

10 本事業で扱う連携する農林水産物の割合・・・実施要綱別記3-1 第5の1の(3)

注 実施要綱別記3-1の第2の2 農林漁業者団体と中小企業者による6次産業化ネットワークの取組を選択した方のみ記載することとします。

(1) 新商品等製造計画 (単位:t、千円)

新商品名												
区分	事業実施前 (年 月期)		1年度目 (年 月期)		2年度目 (年 月期)		3年度目 (年 月期)		4年度目 (年 月期)		5年度目 (年 月期)	
製造量												
出荷額												

注 「事業実施前」欄には、事業実施初年度の前年度の実績を記入することとします。

(2) 連携農林水産物調達計画 「仕入量又は仕入金額」

連携する農 林水産物名	連携事業者	連携農林水産物の取扱計画											
		事業実施前 (年 月期)		1年度目 (年 月期)		2年度目 (年 月期)		3年度目 (年 月期)		4年度目 (年 月期)		5年度目 (年 月期)	
	小計①												
	連携事業外②												
	合計③＝①＋②												
	連携比率①÷③		%		%		%		%		%		%
	小計①												
	連携事業外②												
	合計③＝①＋②												
	連携比率①÷③		%		%		%		%		%		%
	小計①												
	連携事業外②												
	合計③＝①＋②												

- 注 1 複数の農林水産物について連携する場合には、農林水産物ごとに新たに欄を付け加えることとします。
- 2 同一農林水産物で複数の連携事業者がいる場合は、連携事業者ごとに記入することとします。
- 3 「連携事業者」欄の「連携事業外」は、連携する事業者以外からの調達数量の合計を記入することとします。
- 4 「事業実施前」欄には、事業実施初年度の前年度の実績を記入することとします。
- 5 「連携比率」における目標年度とする欄は50%以上であることが必要です。

1 1 専門用語の説明

これまでの記述内容に関して専門用語がある場合は下記に説明を記載することとします。

[illegible]

12 バリューシステムやイノベーションに係る取組について

(1) バリューシステムに係る取組(実需者・消費者へ商品価値の提示を行う取組等)

* 別葉可

(2) イノベーションに係る取組(商品、原材料、生産方法、販路、組織の5つの分野で新結合を行う取組)

* 別葉可

(3) 地域経済への波及効果を及ぼす取組(競合商品・競合先がなく、地域経済(売上、所得、雇用)への波及効果を及ぼす取組)

* 別葉可

1 3 行政施策等との関連性

該当する項目にチェックを入れてください。

(1) 事業実施主体の所在する市町村(申請者の所在地又は施設整備を行う場所)で策定した「地産地消促進計画」に則した取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

(2) 事業実施主体が「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられていますか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

(3) 商品の製造工程においてHACCP(高度化基盤整備を含みます。)を取り入れています(又は取り入れる見込があります)か。

☐ 該当します ☐ 該当しません

(4) 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組ですか。

☐ 該当します ☐ 該当しません

注 「該当します」をチェックした場合には、それを確認することのできる資料又は参考となる資料を添付することとします。

年 月 日

6次産業化ネットワーク活動交付金(整備事業のうち地域タイプ)実施計画書

都道府県知事又は
市区町村長

殿

事業実施主体名
代表者氏名

印

6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱（平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知）第5の1に基づき、事業実施計画を提出します。

本事業実施に関する情報の取扱いについての同意の確認

以下について、「同意します」又は「同意しません」のいずれかに○を付けてください。

市区町村の長に提出した事業実施計画、事業実施状況の報告書及び成果目標の達成状況の評価の報告書に記載した情報について、地方農政局長等が、都道府県知事と共有することに、同意します。
同意しません。

※個人情報の取扱い

地方農政局長等は、6次産業化ネットワーク活動交付金の実施に関して得た個人情報について、「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」及び関係法令に基づき、適正に管理します。

1 事業実施主体等の概要及び添付書類

(1) 事業実施主体の概要

(ふりがな)	()			代 表 者	役職名		
事業実施主体の名称					氏名		
主たる事務所の所在地	(〒)				性別		
					電話番号	- -	
				FAX番号	- -		
事業実施場所(住所)				E-mail			
				常時使用する従業員数		名	
六次産業化・地産地消法に基づく促進事業者の確認			である ・ でない		総合化事業計画 認定年月日		平成 年 月 日
業種		設立年月日	平成 年 月 日	重複申請の有無	有 ・ 無		
事業実施主体の概要							
事業実施主体の事業内容							
過去の類似関連事業 の実績、実施内容等							
事業実施主体又は事業担 当者の業績等							
事業担 当者名							

- 注 1 「業種」の欄には、日本標準産業分類における業種を記入することとします。(製造業等)
- 2 「事業内容」の欄には、定款又は規約等で定める事業内容の全てを記載することとします。
- 3 本事業以外に国、その他公的支援が受けられる事業に応募の場合は「重複申請の有無」の欄で有を選択し申請中の事業名及び事業概要を記入することとします。
- 4 「事業実施主体における役職名」の欄には、農事組合法人は「理事」、株式会社は「取締役」、合名会社、合資会社等は「代表」等と記入することとします。
- 5 今年度既に採択が決定及び実施している事業があれば枠を追加し事業名及び事業概要を記入することとします。

(添付書類)

(1) 応募団体が市町村の場合

- ① 機械の見積書
- ② 機械の配置図
- ③ 機械設置の工程(工事日程)表
- ④ 新商品の開発工程(フローチャート)
- ⑤ 施設等を他社から借用して本事業を実施する場合は、事業実施期間中、確実に事業実施できることを証する賃貸借契約書や誓約書等の資料
- ⑥ 市町村戦略の写し
- ⑦ 費用対効果分析における投資効率の算定の根拠を明らかにするため、6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱(平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知)の別記3-4様式に所要の事項を記載した書面及び当該書面のデータの根拠の欄に記載された内容を確認するために必要な書面

(2) 応募団体が民間団体等(6次産業化・地産地消推進協議会の構成員又は促進事業者)の場合

- ① 定款
- ② 登記事項証明書
- ③ 直近3ヶ年分の決算報告書(貸借対照表、損益計算書等)
- ④ 組織の代表者、規約等のわかる資料
- ⑤ 資金の貸付けに係る計画について当該資金を貸し付ける機関と事前相談等を行ったことが分かる書類(貸付機関名(支店名)、担当者名、連絡先、相談月日等を明記したもの)
- ⑥ 機械の見積書
- ⑦ 機械の配置図
- ⑧ 機械設置の工程(工事日程)表
- ⑨ 新商品の試作工程(フローチャート)
- ⑩ 施設等を他社から借用して本事業を実施する場合は、事業実施期間中、確実に事業実施できることを証する賃貸借契約書や誓約書等の資料
- ⑪ 市町村戦略の写し
- ⑫ 6次産業化・地産地消推進協議会の構成員であることを確認できる資料(促進事業者にあつては、総合化事業計画の写し)
- ⑬ 費用対効果分析における投資効率の算定の根拠を明らかにするため、6次産業化ネットワーク活動交付金実施要綱(平成25年5月16日付け25食産第599号農林水産事務次官依命通知)の別記3-4様式に所要の事項を記載した書面及び当該書面のデータの根拠の欄に記載された内容を確認するために必要な書面

2 事業の概要

事業の内容 及び実施方法	
事業の効果 (地域農業、地域 経済への効果等 を記入)	
事業の スケジュール	

3 機械の設置計画 … 実施要綱別記3-2 第5の1の(2)

機 械	No.	機械名	用途	処理能力	規格・形式	設置 台数	総事業費 (円)	負担区分(円)					貸付けの詳細			設置予定 年月日
								自己資金	地方公共団体等による助成金			交付金	貸付機関名	貸付 時期	償還 年数	
									うち貸付金	都道府県	市町村					
合計																

注1 「用途」の欄には、「〇〇のカット」、「〇〇の冷蔵」、「〇〇の梱包」等当該機械が備えている機能を記入することとします。

2 複数の機械を導入する場合は、欄を追加し記入することとします。

4 新商品の開発計画 … 実施要綱別記3－2 第5の1の(2)

(1)新商品の概要

新商品名	
新商品の概要	
原料農林水産物名	
開発期間	
販売予定時期	

- 注1 新商品の概要欄には、製法や他の商品には無いセールスポイント等を含めて記入することとします。
2 複数の新商品を開発する場合は、新商品ごとに欄を追加し記入することとします。
3 原料農林水産物等の欄には、新商品の主な原材料となる当該市町村で生産される農林水産物等を記入することとします。

(2)商品化に至る新商品数の見込み

単位: (件)

1年度目 (年月期)	2年度目 (年月期)	3年度目 (年月期)	4年度目 (年月期)	5年度目 (年月期)

注4 (1)で記入した新商品の総計を記入すること。なお、一度販売した商品であっても一部仕様を変更するため新商品開発を行い再度販売する場合には、仕様変更前の商品とは別の新商品としてカウントできるものとします。

5 機械の利用計画 … 実施要綱別記3－2 第5の1の(4)

【加工機械】

機械名：_____

新商品名	利用期間	利用日数	月別利用計画(月)												備考
	目標	目標	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	

【分析機械】

機械名：_____

新商品名	利用期間	利用日数	月別利用計画(月)												備考
	目標	目標	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	

- 注1 複数の機械・施設を導入する場合は、機械ごとに欄を追加し記入することとします。
- 2 複数の新商品について利用する場合は、新商品ごとに記入することとします。
- 3 「利用期間」については、「通年」、「〇年〇月～〇年〇月」等が分かるように記入することとします。
- 4 「月別利用計画」については、機械の稼働日数を記入することとします。
- 5 分析機器については、開発された新商品の成分分析に利用する場合にも稼働日数として計上することとします。

6 専門用語の説明

これまでの記述内容に関して専門用語がある場合は下記に説明を記載することとします。

用 語	説 明

7 バリューシステムやイノベーションに係る取組について

(1) バリューシステムに係る取組(実需者・消費者へ商品価値の提示を行う取組等)

※別葉可

(2) イノベーションに係る取組(商品、原材料、生産方法、販路、組織の5つの分野で新結合を行う取組)

※別葉可

(3) 地域経済への波及効果を及ぼす取組(競合商品・競合先がなく、地域経済(売上、所得、雇用)への波及効果を及ぼす取組)

※別葉可

8 行政施策等との関連性

該当する項目にチェックを入れてください。

(1) 事業実施主体の所在する市町村(申請者の所在地又は施設整備を行う場所)で策定した「地産地消促進計画」に則した取組ですか。

☐

該当します

☐

該当しません

(2) 事業実施主体が「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられています。

☐

該当します

☐

該当しません

(3) 商品の製造工程においてHACCP(高度化基盤整備を含みます。)を取り入れ、(又は取り入れる見込みがあります)か。

☐

該当します

☐

該当しません

(4) 和食などを軸とする観光・食文化政策の展開に資する取組ですか。

☐

該当します

☐

該当しません

(5) 地域再生法に基づき、内閣総理大臣から認定された地域再生計画に位置付けられた取組ですか。

☐

該当します

☐

該当しません

注 「該当します」をチェックした場合には、それを確認出来る資料又は参考となる資料を添付してください。